

「いのち」の教育実践事例

☆新庄市の実践

北辰小・本合海小の「いのちの日」の実践例

生命の継承の
大切さに関する
教育

－「いのちの日」を通じた心の教育－

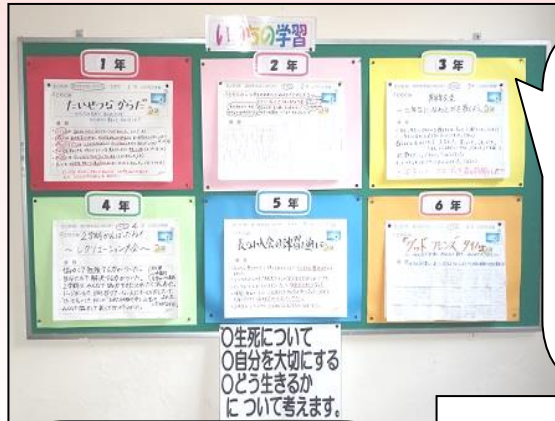
「いのち」に関連した授業や講話を通して、児童生徒が「いのち」について深く考える取組みを行っています。その実践の一部を紹介します。

○ 新庄市立北辰小学校の実践

- 毎月1日を「安全・いのちの日」、6月を「いのちの教育重点月間」とし、担任と養護教諭が連携し、生と死・性教育・生き方など多岐にわたる学習を行い、「いのちの尊さ」について深く考える機会を設けている。全学年の学習の様子が「いのちの学習コーナー」に掲示され、学習を振り返る場になり、多様な意見や考えに触れ、一人一人がより考えを深めている。
- 毎年3月「東日本大震災に学ぶ」をテーマにした授業を行っている。発達段階に応じて内容を精選しながら、高学年は震災を扱った教材を使い道徳を、中・低学年は命にかかわる絵本を活用して読み聞かせを行い全校で「いのち」について考える取組みを継続して行っている。

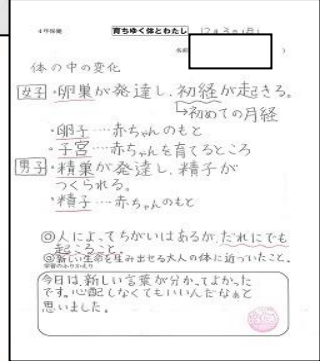
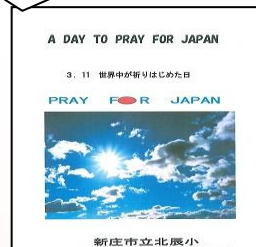
○ 新庄市立本合海小学校の実践

- 毎月月初めに「いのちの日」を設け、全校児童を対象にいのちに関する話（いのちの講話）を行っている。学校職員が講師を務め、『きまり・マナー、安全・体づくり、いじめ・いのち、自然・環境、食育、読書、夢や目標等』の様々なテーマで話をし、感想の発表を行っている。さらに、学級で考えを深める時間を設けたり、保健の授業の内容と関連付けてする等、学年に応じて工夫しながら取組みを行っている。
- 6月の講話では、「いじめ・いのち」のテーマで教頭先生が絵本の読み聞かせを行った。1月には「友達・家族」をテーマで講話が行われた。



いろいろな学びや感想から、各学年の学習の様子が分かります。

「東日本大震災に学ぶ」6年間の学習をファイリングしています。



学習のプリント



6月の講話「いじめ・いのち」の絵本の読み聞かせの様子より。



「妊婦体験」の様子

講話「友達」についての感想

